獨 協 医 学 会

会 長　稲 葉 憲 之（獨協医科大学学長）

運 営 委 員

千種　雄一*　石光　俊彦**　阿部　七郎　石井　芳樹　板垣　昭代
片桐　一元　国分　則人　小嶋　英史　小林　哲　坂本　秀一
佐々木欣郎　白瀧　博通　杉本　博之　西山　緑　濱口　眞輔
林　啓太朗　福島　央之　宮本　雅之　緑川由紀夫　室久　俊光
森田　公夫　和氣　晃司

*委員長　**副委員長

Dokkyo Journal of Medical Sciences 編集委員

石光　俊彦*　白瀧　博通**　阿部　七郎　石井　芳樹
佐々木欣郎　濱口　眞輔　福島　央之　宮本　雅之

*委員長　**副委員長

編集事務員

松本智恵子

編 集 後 記

Dokkyo Journal of Medical Sciences Vol.44, No.3（獨協医学会雑誌　第44巻3号）をお届けいたします．今回は原著4編，症例報告1編，総論1編です．特集は「高齢患者治療の現状と展望」と題して11編の論文を頂きました．

今回，研究者の評価について日頃考えていることを編集後記の場をお借りして少し書かせて頂きます．医科大学教員は，教育者として学生教育を通じて社会に貢献出来る医師，医学研究者を育成すると共に，研究者として研究成果を世に広く発信して科学の進歩に貢献する役目も担っています．そのため，医科大学教員は研究業績を主な判断材料として研究者としての評価も受けることになります．では，研究業績とは？ 研究業績の優劣を判定する指標とは？ 先ず，評価対象を学術論文の“数”とした場合はどうでしょう，“数”は確かに研究の活動を類推するには客観的ですが，個々の学術論文の質である研究内容が評価の対象から外されてしまいます．そこで，個々の学術論文の質を数値化するものとしてトムソンロイター社が出しているImpact Factor（IF）が広く使われています．しかし，IFは，本来は（当該年に過去2年間に掲載された論文が掲載された回数）／（前々年の掲載論文数＋前年の掲載論文数）で計算される雑誌の評価指標であり，毎年のように学術論文誌が創刊されて株価のごとく激しくIFの数値が変動する現状では，IFを個々の掲載論文の質を数値化したものとして判断材料とすることへの疑問が多く投げかけられています．確かに，IFが高い雑誌は総じて採択率が低くて掲載論文の質も高い場合が多いのも事実ですが，有名誌に掲載されていても誰からも見向きもされない論文が数多くあるのも事実です．そこで，数年前，掲載論文の質をその論文の被引用回数に比例するとの前提で研究の“質”と“量”の両方を考慮した“研究者のポテンシャル”の指標として“研究者の論文のうち，被引用回数がh以上であるものがh個以上あることを満たすような最大の数値”を算出したh-indexが考え出されています．具体的には，10回以上引用された論文が10編ある研究者のh-indexは10になります．100回引用された論文が1編，引用されたことのない論文が9編ある研究者のh-indexは1になります．研究者の実力を客観的に評価する指標として考え出され，日本でも教授選考の判断材料として用いる大学が増えているh-indexですが，1）研究期間が長い研究者に有利になる．2）分野により引用回数が異なる．3）筆頭，共著等の貢献度情報が欠如している等の欠点が指摘されています．今後，h-index以外に研究者の実力を客観的に評価する指標が次々と提案されてくると思われますが，米国の名言に”There are three kinds of lies：lies, damned lies, and statistics.”（世の中には三つの嘘がある．それは嘘，真っ赤な嘘，そして統計）というのがあります．将来，“研究者のポテンシャル”を客観的に評価すると提案された種々の指標を鵜呑みにするのではなく，その指標に嘘が潜んでいることに注意を払い，研究内容にも踏み込んで研究者をじっくりと評価する評価システムが獨協医科大学につくられることを切に期待しています．

（白瀧博道）

2017年10月20日印刷　第44巻　第3号
2017年10月25日発行

編集発行人　獨協医学会
稲 葉 憲 之

発 行 所　獨協医学会
〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林880番地
獨協医科大学
Tel（0282）86-1111（内線2009）

製　　作　教 文 堂
〒162-0804 東京都新宿区中里町27
Tel（03）3260-6136